

2/10 木 朝

米海軍隊が那覇港演習施設（那覇埠頭）で垂直離着陸輸送機MV-22オスプレイや大型輸送機CH-53Eなどを使った訓練を那覇港や那覇市の市上要請を無視して強行している。回車港には昨年も米本国からの搬送のためCH-53Eが飛来し、県や市が強い抗議してしまった。今回は訓練のための使用であり、米軍の横暴勝手な行為は即刻止むばかりだ。

基地負担いっそう増大

米陸軍が管理する那覇埠頭での訓練は8~12日の予定とされますが、糸瀬を拠点とする那覇埠頭（31MEU）の隊員約100人が大使館警護や非戦闘員運送などの訓練を行なっています。

MEUが回車港で行なった訓練をするのが初めてのことです。

「（那覇）埠頭は国連に回り、すぐ近くには那覇埠頭やプロ野球巨人がキャンプを張る糸瀬セントラルタウンの生活圏（糸瀬タイムベイ）です。那覇市の城間幹

搬船に積み込まれ、機体整備のため米本国に輸送されました。

沖縄の施政権返還時に最初の便用条件なども定めた1972年の日米合意（5・15メモ）は、那覇市が糸瀬埠頭は厳格に運用されると規定されていますが、（8日）だと強調してあります。豊田文雄政権が「漁業の使

用が想定された場合に備わる訓練（米ハンド太洋洋課）」（ホーク）一連練習知識は「航行機の使用が想定された場合に備えられ、那覇埠頭施設の使用の制限が与られたもの

米軍は横暴勝手を即刻やめよ

子由豊は、多くの民間機が発着する那覇埠頭に近づいた回車港への訓練を許さない那覇埠頭施設にオペレーターを飛来させたこと

用を目的としてこなじめの訓練は許されません。

今回も訓練が山渕有事なり中国

航空機の飛来は「市民・県民をはじめ多くの観光客からの安全確保」の大変な不承認であった。「今

は、圓滑な対応をせざるは難難題」の戦争を想定してこねむの撃擣

が上がりこめるも事実です。糸瀬、米軍はつて日本、中国が

このような連用が「軍事的」な

訓練の激化につながってこま

す。日米地位協定が米軍による基

地の自由使用を認めてこじるのも大きな問題です。対米通従をやめ、東南アジアを平和と強力の地域にする外交努力や地位協定の抜本改定を求めるにいふが、沖縄の基地負担

那覇軍港での訓練

主張

のうちも米軍基地の使用を許せない」と、1972年に記載されています。31MEUも参加しました。

「第一列島線」での漁業的対抗するべき」（8日）だと強調してあります。豊田文雄政権が「漁業の使

用が想定された場合に備えられ、那覇埠頭施設の使用の制限が与られたもの

のだと（松野博一官房長官、同日）と米

國を擁護してこらるる

対米通従の姿勢やよ

の